

10/28 東北ホップ 100%黒ラベルの完成を祝う会
ことしの出来栄えに太鼓判

東北ホップ 100%黒ラベルの完成を祝う会がジョイワーク三戸で行われました。同会は、サッポロビール(株)、サッポロビールホールディングス(株)とホップ産地包括連携協定を締結する5市町(二戸市、軽米町、三戸町、田子町、岩手町)の関係者で行われました。参加者は、ことしのホップを使用した香り豊かな東北ホップ 100%黒ラベルの出来栄えを確認し、生産農家に感謝を伝えるとともに、関係者と交流を深めました。



10/30 三戸町母子健康包括支援センター愛称命名式

妊産婦の支援をより充実

妊娠期から子育て期にわたる母子の切れ目のない支援を目的とした三戸町母子健康包括支援センター「SAN ぽぽ」の愛称命名式が、役場1階保健センターで行われました。愛称は57点の応募の中から「SAN ぽぽ」が選ばれ、松尾和彦町長が名付け親の武士澤麗さんに名付け親証明書と記念品を手渡しました。武士澤さんは「三戸の『三』と太陽の『SUN』に、たんぽぽの『ぽぽ』をイメージして、子どもたちが明るく元気に育ってほしいという願いを込めて名前を付けました」と話しました。



11/4 ハ戸法人会三戸支部が手指消毒剤を寄贈

子どもたちの安心・安全な学校生活に一役

ハ戸法人会三戸支部(石亀和郎支部長)が、町内の小中学校に手指消毒剤32本を寄贈しました。消毒剤の寄贈はことで9年目となります。石亀支部長は「インフルエンザやコロナウイルス感染症を予防し、子どもたちが元気に勉強できるように活用してほしい」と話し、友田博文教育長に消毒剤を手渡しました。同日、石亀支部長らは、小中一貫三戸学園斗川小学校を訪れ、消毒剤を寄贈。学校関係者から消毒剤の使用方法などの指導が行われました。



11/5 杉沢小学校で植林体験
森林、林業について学ぶ

三戸町立杉沢小学校(田中康文校長)の児童4人は、葛畠地区的山林で、植林体験をしました。児童たちは、三八地区森林組合の指導を受けながら約60cmの杉の苗木を一本ずつ丁寧に植え、森林や植林の大切さを学びました。植えられた70本の苗木は、40~50年をかけて25mの高さに成長し、伐採できるようになります。老久保ひよりさん(3年)は「はじめてだったけれど、やってみて楽しかった」と笑顔で話しました。

10/27 保育所・認定こども園に大型ベビーカートを贈呈
子どもたちの安心と安全のために役立てて



町では、三戸町仏教慈眼会(高杉法昭会長)からいただいた児童福祉振興寄附金を活用し、三戸保育園(中村隆也園長)、ミューズ保育園(井ノ口幸子園長)、いずみ幼稚園(小野正志園長)にそれぞれ大型ベビーカート1台を贈呈しました。高杉会長と松尾和彦町長が各施設を訪問し、園長に贈呈書を手渡しました。大型ベビーカートは、普段の散歩や災害時の迅速な避難などに利用され、子どもたちの安心と安全のために役立てられます。



10/22 災害時等における石油類等燃料の供給に関する協定締結式
町の事業者と、安心・安全なまちづくり

町内で燃料を販売する事業者9社(石亀石油株式会社・石亀燃料株式会社・株式会社東日本宇佐美・ウトウ株式会社・ENEOSグループエナジー・株式会社サンガス・株式会社寺牛商店・株式会社東酸・株式会社ぱるじゃサービス)と三戸町は、災害時等における石油類等燃料の供給に関する協定を結びました。締結式には、事業者を代表して石亀石油株式会社(石亀和郎代表取締役社長)が出席し、松尾和彦町長と締結書を取り交わしました。今回の協定は、災害時においては、石油などの燃料を防災拠点施設や緊急車両へ優先的に供給するほか、平常時においては、灯油やガスなどの配達業務中に、町民の安否や町民の生活に影響が生じるような異変に気づいた場合は、町へ情報を提供するなど町民の見守りについても支援する内容となっています。松尾町長は「今回の協定を機に、より一層の連携を図り、安全・安心なまちづくりに努めていきたいです」と話しました。石亀代表取締役社長は「有事の際は、町内の全事業者が協力して燃料を供給していきたい」と話しました。

11/1~3 第48回三戸菊花展

色鮮やかな作品にうっとり

三戸菊クラブ(稻村國男会長)主催の第48回三戸菊花展がアップルドームで行われました。会場には、町内の菊愛好家や三戸町立杉沢小中学校の児童たちが育てた自慢のさまざまな品種の菊が384点展示され、会場を彩りました。稻村会長は「今回は初めて子どもたちも作品を出品しました。このような経験から、多くの人が菊に興味を持ってくれたら嬉しいです」と話しました。



色鮮やかな菊を見る人たち